

# 国経研だより

神奈川大学 国際経営研究所  
〒259-1293 平塚市土屋 2946  
神奈川大学湘南ひらつかキャンパス  
Tel. 0463-59-4111 (内線 2200)

## “国経研だより”の発刊に寄せて

照屋 行雄

神奈川大学国際経営研究所は、国際経営に関する理論的・実践的研究を推進するとともに、国際経営に関する教育体系を構築することを目的としています。

そのために、国際経営に関する各種共同研究プロジェクトの推進や講演会・フォーラムの開催を行い、また、地域研究や国際学術交流を展開しています。

このような当研究所の諸活動は、『国際経営フォーラム』誌などの刊行物によって、広く内外に公表されるとともに、学部や大学院の教育や経営フォーラムなどを通じて報告されています。

2003年度の共同研究プロジェクトは、特別研究が1件と共同研究が6件となっており、それぞれプロジェクト・リーダーの先生を中心に研究が進められています。そして、それ以外に2件の研究成果報告と1件の奨励研究プロジェクトが取りまとめの作業に入っています。

また、2003年度は前期に2件の公開セミナーの開催後援を行い、後期に2件の講演会を開催しました。さらに、STSセンターによるSTSフォーラムと、平塚市および平塚商工会議所の後援を得て国際経営フォーラムを開催しました。

当研究所のこのような研究・教育活動や地域交流活動の内容をタイムリーに報告するため、この度『国経研だより』

を発行することとなりました。本だよりは、年4回(4/1・7/1・10/1・1/1)の発行となります。

本紙を通じて、当研究所の事業運営の基本的考え方や事業目標が明らかにされるとともに、常任委員や研究所員の日常的な研究・教育活動が報告されます。また、共同研究プロジェクトの進捗状況や講演会・フォーラムなどの予定や実施結果、その他当研究所の諸活動の内容が掲載されることとなります。

さらには、当研究所からの情報発信のみならず、所員の先生方のご意見やご提案なども紙面の許す限り掲載し、当研究所の運営に生かしたいと考えています。先生方にはご協力・ご支援をお願い致します。

最後に、当研究所の所員で2003年度末をもって定年退職された鎌田章先生(健康科学)並びに大場恒明先生(フランス語)のこれまでの多大なご貢献に対し、厚くお礼を申し上げたいと思います。また、3月末で退職され、他大学に移られた桐村晋次先生に対しても心から感謝申し上げます。

本『国経研だより』をどうぞご愛読ください。

(所長/てるや・ゆきお)

## 年年歳歳人相似／歳歳年年花不同（？）

後藤 伸

長年の間、イギリス海運企業の歴史研究に携わっている。その研究は、おおまかにいえば企業経営の国際比較史研究の一つとして位置付けられようか。今回は専門に関わるというよりは、周辺的な事柄、しかもごく私的な感懐を書き留めることにしたい。

海運企業の社内文書を閲覧するため初めて訪英したのは、いまから四半世紀近くも昔の初夏の頃であった。目当ての文書館はグリニッジにあった。当地は、世界の標準時刻を定めた場所として、また河岸近くには帆船のカティーン・サークが係留されていて、観光地としてもにぎわっている。下宿からグリニッジまでは地

下鉄とバスを乗り継いで通った。その当時のイギリスといえば、サッチャー

一首相が労働組合に強硬姿勢をとりつつ、経済の立て直しに躍起となっていた時代である。街はほこりっぽく、地下鉄の線路にはタバコの吸い殻や菓子の包み紙が無造作に放り投げられていた。ホルボーンから乗ったバスは、ロンドン大学周辺を通過して南に下り、ウォータールー駅からテムズ河沿いに東に向かった。乗降客も背広にネクタイ姿の勤め人からジーンズにシャツ姿、さらにはアンダーウェア一枚のいわゆるワーカーへと変わっていった。終着駅のグリニッジで降りるのは、観光客と文書館に通う私ぐらいであった。

資料文書の読み取りに倦むと、グリニッジ周辺の公園を散策するのが日課となった。その当時、公園の一画には巨木が生い茂り、「小さな森」を形作っている場所があった。

日本の街路樹が短く刈り込まれて、冬などには痛々しさが目立つのに対して、イギリス人はさすが樹木をおおらかに繁らせておくものだと思った。木々が作り出す、うっそうとした雰囲気が気に入っていたのである。

時を経て、1990年代後半、大学から長期海外研修の機会を与えられて、四度目の訪英となった。グリニッジ通いを再開した私は、あの「小さな森」が消失していることに気付いた。木々は間引きされ、枝は刈り込まれ、日光がさんさんと降り注ぐ小さな丘陵に変わっていた。かつての「小さな森」

は、あたかも私の幻であったかのようにであった。

じきに、変化の原因について得心した。ブレア

政権の下、イギリスの景気は好くなり、不動産バブル的な様相を呈していた。グリニッジ旧天文台のある丘からテムズ河の対岸をみれば、ミレニアムを祝う娯楽施設の建設が始まり、またそのための交通手段として地下鉄の延伸工事も進捗中であった。手入れしたくとも資金不足から手付かづのまま「森」と化した薄暗い場所など、ハレの場にふさわしくはなかったのである。

私は相変わらずバスを利用して通ったが、そのバスは路線こそ80年代と同じであったものの、汗ばんだ肌着一枚のワーカーが乗り降りすることもなくなっていた。私はどうやら、疲弊したとはいえ平常心を保ち続けていたイギリスのほうが好きだったようだ。

(所員／ごとう・しん)

## 研究余滴

## 国際経営フォーラムの開催

研究所の国際経営フォーラムが、2004年3月10日(水)に平塚商工会議所で開催されました。フォーラムの統一論題は、「地域の時代とビジネス革新—地域に根ざし、地域と共に生きるビジネス創造—」とし、基調講演とパネル・ディスカッションを行いました。同フォーラムは、

平塚市と平塚商工会議所の後援を得て、また、神奈川県湘南地域産学公交流推進協議会(KSSK)および神奈川大学産官学連携推進室の協力のもとに運営されました。

フォーラムの概要は、次のとおりです。

主催 神奈川大学 国際経営研究所

## 国際経営フォーラム

# 地域の時代とビジネス革新

## —地域に根ざし、地域と共に生きるビジネスの創造—

- 1 開催日時 2004年3月10日(水) 13:30~17:00
- 2 開催場所 平塚商工会議所 3階大ホール  
(神奈川県平塚市松風町2-10 TEL 0463-22-2510)  
\*JR 東海道線平塚駅南口より徒歩5分、
- 3 フォーラム
- (1) 基調講演 13:40~14:20  
齊藤毅憲氏「地域の時代とビジネス」  
(横浜市立大学教授、日本経営教育学会常任理事)
- (2) パネリスト報告 14:30~15:55
- ① 小泉光一郎氏「ビジネス革新と地域との共生」  
(相模石油株式会社社長)
- ② 小沢裕司氏「地域におけるビジネス支援」  
(神奈川県平塚商工労働センター商工課長)
- ③ 海老澤栄一氏「地域の時代におけるビジネス創造」  
(神奈川大学教授、日本経営診断学会会長)
- (3) コメンテーション 15:55~16:10  
伊澤繁雄氏「ビジネスの創造と地域活性化」  
(平塚商工会議所専務理事)
- (4) パネル・ディスカッション 16:10~17:00  
コーディネーター 後藤 伸 氏(神奈川大学教授)  
後援 平塚市および平塚商工会議所  
協力 神奈川県湘南地域産学公交流推進協議会  
および 神奈川大学産官学連携推進室

## 講演会・フォーラムの予定

2004年4月以降の講演会およびフォーラムの予定は、次のとおりです。詳細は、本紙の次号および学内掲示等でお伝えします。

- 5月 「企業経営の健全性と革新性」
- 6月 「NGOの活動と国際貢献」
- 10月 「国連の新たな役割と日本」
- 11月 国際経営フォーラム「コーポレート・ガバナンスと経営革新」
- 12月 STSフォーラム

## 「ちがさき市民大学」への講師派遣

茅ヶ崎市教育委員会が開設する「ちがさき市民大学」の今年度後期講座（第1回2004/2/14～第6回2004/3/20、毎土曜日14時～16時）に、当研究所の所員3名と経営学部特任教授1名を講師として派遣しました。

これは、同市民大学の企画運営委員会より、当研究所長に講師陣の組織・調整を依頼されたことに基づくものです。当研究所では地域交流活動の一環として、所員を中心とした講師陣の紹介・派遣を行うこととし、講師の先生方のご協力を頂きました。

講座の全体テーマは、「世界に果たす日本の貢献—国際貢献を中心に—」となっており、120名の茅ヶ崎市民が受講しました。

今回派遣された当研究所所員を含む講師のお名前と講義テーマは、次のとおりです。

- 第1回 石積 勝氏「国連の現状と日本の役割」
- 第2回 嘉数 啓氏「ODAのあり方」
- 第3回 今田克司氏「NGOと国際貢献」
- 第4回 田中則仁氏「産業の国際化」
- 第5回 加藤 薫氏「生活文化の国際化」

- 第6回 ゲプハルト・ヒールシャー氏  
「海外から見た日本」

## 共同研究プロジェクトの募集

## ・神奈川大学研究奨励助成研究の募集

神奈川大学では、奨励研究助成制度に基づき、研究計画の募集を行っています。同奨励研究の申請は、当研究所を通じて行い、その運営は研究所長が行うことになっていますので、申請ご希望の所員は、研究テーマや研究メンバー等を設計し、所定の申請書類に記載の上、所長宛ご提出下さい。提出期限は、4月5日（月）までに当研究所必着となっています。

## ・当研究所共同研究プロジェクトの募集

当研究所では、今年度から2年間にわたって実施される新規の共同研究プロジェクト3件の募集を行っています。ご希望の先生方は、所定の申請用紙に必要事項記載の上、2004年4月9日（金）までに事務局までご提出下さい。各種テーマでのご応募をお待ちしております。

## 研究所の人事往来

## ＜客員研究員の採用＞

当研究所の客員研究員として、現在、桜井武典氏と金 宇烈氏の2名が研究活動に参加していますが、去る3月4日の第3回所員会議において、新たに2年間の継続採用が承認されました。

## ＜常任委員の一部改選＞

3月4日の第3回所員会議において、常任委員の一部改選が行われ、新役員が次のとおり決定しました。

- |      |               |
|------|---------------|
| 所長   | 照屋行雄（継続）      |
| 常任委員 | 後藤 伸（企画総務、継続） |
|      | 石積 勝（調査研究、継続） |
|      | 田中則仁（地域交流、新任） |
|      | 金谷良夫（出版広報、新任） |